

韓国の教育における伝統と近代化

著者	敦 泳宇
図書名	東洋大学創立100周年記念講演集
開始ページ	128
終了ページ	131
出版年月日	1989-03-20
URL	http://id.nii.ac.jp/1060/00006812/



Ⅲ. 教育から見た諸問題

韓国の教育における伝統と近代化

郭 泳 宇

日本帝国の植民地からの解放（一九四五年）後、米軍政―李承晩―尹潽善―朴正熙―崔圭夏―全斗煥に連なる韓国の政治的変動は急激なものであった。一九四八年、韓国の政府が発足した後、六・二五南北戦争、四・一九学生義挙、一〇・二六宮井洞事件、五・一八光州事件、六・二九民主化宣言等は険しい韓国の政治、経済、社会、文化の動揺、不安と葛藤を端的に表すものである。一九八五年を境として、韓国の経済は既に離陸の段階に入った。一人当りGNPが二、〇〇〇ドルを越し、一九八六年のアジア競技大会では日本を追い越し、中国を脅かして第二位の記録を樹立した。一九八八年にはオリンピックの開催国として、また、シンガポール、香港、台湾と並んでアジアの新興国として世界の耳目を集めている。これは漢江の奇蹟ともいわれるが、これは奇蹟ではなく、因果の關係で説明できると思われる。韓国の教育における伝統と近代化への努力と歩みがその原因と結果を説明するものである。というのは、教育と社会の發展とは相互に密接な關係を持つものだからである。

一、韓国教育の近代化がもたらしたもの

終戦後、韓国の教育はその量と質の両面で急速に発達した。開化して百年、今日に至るまで韓国教育が追及した目標については様々な表現が可能だと思われるが、一言でいえば「教育の近代化」であった。その間、旧韓末以来の伝統的教育の轡から解放されようと、新教育として児童・生徒中心の生活、経験中心、そして民主的自由学校の理念と思想を西洋諸国、とくにアメリカに学んだ。プラグマティズムを基底理念とするアメリカの進歩主義教育の思想を、韓国各級学校のクラス・ルームでの教授・学習活動の中で実現する為に色々な方策が講じられた。基幹学制六・三・三・四の仕組みで、教育の目的、内容、方法、評価は伝来のそれとは異なるものとなった。プログラム学習、問題解決学習、team teaching, teaching machine, CAI、オープン・スクール等、学習の能率化のために考案された諸アイデアが教育現場に導入された。急激な社会変化に対応するためガイダンスとか、カウンセリングの諸技法が紹介された。

韓国における教育の近代化という目標は、その建て前としては、科学化、合理化、能率化、民主化、人間化のことで、その限りで非難の余地はない。また、韓国における政治、経済、社会、文化の発達についてのその貢献を過小評価するわけにはいかない。開化以後百年に亘る韓国教育のメイン・イッシュューは教育の近代化であったが、未来においてもその目標が変わりがないことは明らかである。

ところで、産業化社会の進展が招いた副作用としての社会病理の諸現象

に着目し、その原因を考える時、それは大いに教育の近代化の逆効果だと見える。

第二次および第三次産業を中心とする都市化された社会では、物質的側面が強調されるが精神的な側面は軽視される。物神崇拜思想が横行して経済優先、物質中心、黄金万能、加えて高度の technology による人間疎外とアノミーが現出される。極端なエゴイズム、非行、犯罪、情緒不安、薬物中毒、家庭不和、家出、離婚、老人疎外、不完全就業、ストライキ、スラム、淪落、公害、暴飲、環境汚染等は産業化社会の害毒であるが、これはまた、教育の近代化に、少なからず責任があるといえる。

教育の危機的状况は今日世界的現象であるとはいえ、韓国教育の病理症候も軽いとはいえない。知的、情緒的、運動技能的諸側面を均等に発達させる全人 (wholism) 教育が強調されるものの、知識教育偏重で道徳教育は形骸化されている。国民一般の学歴は高くなったとはいえ、暖かい心、熱い血の通う人間としての思いやり、親愛と寛容性に富んでいるインテリは少ない。学歴社会、入試地獄、画一化、個性喪失等に、現代教育の諸病理群に対する治療策は人間性の回復ならびに伝統的道德と倫理の再建にあると叫ぶ声が高い。

二、伝統の発見と再建

現代社会の諸病症を根本的に治療するためには、韓国の伝統的社会に深く根をおろしている美風良俗と伝統的倫理を発見して、それを再建しなければならぬ。「忠」「孝」「礼」の徳目は愛国愛族、家庭の identity の再建、

長幼上下の秩序と人間関係、世間体の意識を導ぶが、それは伝統的教育機関である書堂、書院、郷校において特に強調された教育目的であり、教育内容であった。儒教の「三綱五倫」の道德律への回帰でなく、現代的なりバイバルが必要なのである。「以忠事君」、「以孝事親」の現代的意味とその実体が探究されなければならないのである。

韓国では教育の近代化の運動の中で、「伝統」を生かすための色々な試みが続けて来た筈である。再建国民運動とかセマウル(新しい村)運動等の汎国民運動の中で展開された一連の国民精神改造の動きがそれである。セマウル運動は韓国の農村の伝統的な生活様式を改革することで、物質面では所得増加の運動であるが、精神的には、集団生活と協力の為の新しい倫理建設の運動であった。教育界では「国籍のある教育」、「主体性を生かす教育」をキャッチ・フレーズとして各級学校の教育課程に「国民倫理」という教科が追加されるなど具体的措置がとられた。祖先崇拜、礼儀作法の垂範として高齢者に対する礼遇が強調された。全国坊々曲々には敬老会館あるいは老人堂、養老堂と名付けられた施設が設けられた。「敬老孝親」は国は勿論社会が奨励する教育目標として認められている。

このような一連の動向は、文教部奨学方針として官側からのリーダーシップと、民間側のボランティア活動の呼応とが結合されて、一九八五年以来特に活発となった。学級では美風良俗、特に敬老孝親、に関する多様なプログラムが開発され、模範事例を挙げ表彰したりしている。地域社会では良い伝統の維持、再建を狙う運動が広がっている。儒林、或いは儒学者は私塾として書堂を開き、村の子供と青年は extra curricular 活動として、ここに通う。近代化されつつある韓国の社会に伝統の再発見とその再

生の必要性が自覚されたのである。教育における近代化の追求は時計の振り子のように揺れ動く社会の展開を伴うが、その鎮静または求心の勢力は伝統である。

三、ペンデュラム・スウィングでの安定弁

伝統と近代化は一つの連続体 (Continuum) の両極を指している。閉鎖と解放、同質と異質、不合理と合理、運命と因果、情実と能力、未分化と分化、古代・中世と近代・現代、アジアとヨーロッパ、都会と農村、外面的品位 (Äußerliche Würde) と内面的品位 (Innerliche Würde)、……様々な対比ができる。発達の方角としては伝統から近代化へ、といえる。歴史は一応近代化へ進むものとはいえ、伝統の価値を軽蔑するわけにはいかない。伝統を完全に捨てて完璧に新しいものをもって、社会を作りなおすのは不可能である。一つの社会 (国家) が近代化されるということは、その固有なる歴史と伝統を基盤としてその上に独特のパターンの新機軸を導入したことを指す。「伝統は悪、近代化は善」だと単純に言えない。伝統だけでは虚弱であり非能率である。また近代化だけでは不安定であり非人間的な面がある。この二つの価値は一つの連続体にあつて、本質的には両者択一の関係にたつ。時間の軸で歴史はこの二つの価値の間の振り子である。

教育は本質的にこの二つの価値を受け入れることを基盤として成り立つ。個人の人格形成、社会の存続維持のための機能としての教育は「伝統」を基盤に「近代化」を築き上げることである。これは言い方を変えたと、

「文化伝達」と「文化創造」だといえる。文化伝達と文化創造は教育の目的で統合される。これは社会の伝統維持の保守的作用と、社会の変化改革の進歩的作用のことである。今日の社会の諸問題、教育の諸病理または誤謬は、この二つの機能の不均衡に由来するものといえる。

永久に変わることのない指標は伝統から発見される。「汝の父母を敬え、汝殺すなかれ、汝盗むなかれ、汝その隣人に対して虚妄の証拠をたつるなかれ」。普遍的な道徳性に対し、カントは言う。「繰り返しじつと反省すればするほど常に新たにそして高まりくる感嘆と崇敬の念をもって心を満たすものが二つある。我が上なる星の輝く空と、我が内なる道徳律とである」。急激にまた不断に揺れ動く韓国社会の進展の中で、主体性を失わないようアイデンティティを守る力は韓国の伝統すなわち歴史に求められるものであることは疑い得ない。